

サヌカイト



地層名：国分台層
 時代：中新世
 産地：香川県坂出市国分台
 横幅：約13cm GSJ R057588

サヌカイトは、約1300万年前に瀬戸内地方に噴出した高マグネシウム安山岩質マグマを起源とする岩石の一種です。第4展示室火山岩コーナーには、2つのサヌカイトが展示してあります。ここでは、そのうちの1つ (GSJ R057588) をご紹介します。標本を見てみると、暗灰色で表面はきめ細くなめらかな印象です。全体が均質で、斑晶 (大きな鉱物の結晶) が少ない特徴があらわれています。また、サヌカイトは「音」にも特徴があります。別名を「かんかん石」とも呼ばれ、硬い棒などで叩くと高く澄んだ音を出します。とても緻密で空隙が少ないこと、細長い微小な鉱物結晶が一方に並んでいることなどが、サヌカイトがきれいな音を出す理由だと考えられています。このような特別な性質から呼鈴として使用されたり、長さの異なるサヌカイトを並べて、木琴に似た楽器「石琴」を作ることができます。

この標本はところどころが鋭く尖っています。緻密な構造のため、割れたときには黒曜石のような鋭利な割れ口をつくるためです。縄文～弥生時代には、矢じりや石刀として生活に使われました。

サヌカイトは産地である香川県の旧国名「讃岐」にちなんで命名されました。和名は「讃岐岩」で、香川県の五色台地域周辺や大阪府と奈良県にまたがる二上山地域などに限って産出する岩石です。香川県の「県の石 (岩石)」(日本地質学会2016年発表) に選定されています。世界的に珍しい岩石をぜひご覧ください。

(地質標本館室 土井琢磨)